

大分県長期漁海況予報

〔令和8(2026)年8月～12月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和8年4月～令和8年7月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、3月上旬は接岸傾向でした。3月中旬～7月上旬は離岸傾向で推移しましたが、7月中旬以降は接岸傾向に転じました。
- ・足摺岬では、小蛇行の影響で4月上旬に一時的に離岸しましたが、6月上旬までは接岸傾向で推移しました。6月中旬～7月中旬は離岸傾向で推移しましたが、7月下旬以降は接岸に転じました。
- ・3月～4月上旬にかけてB型流路で推移し、その後はN型で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月、6月、7月は「高め」、5月は「やや高め」で推移しました(図1)。

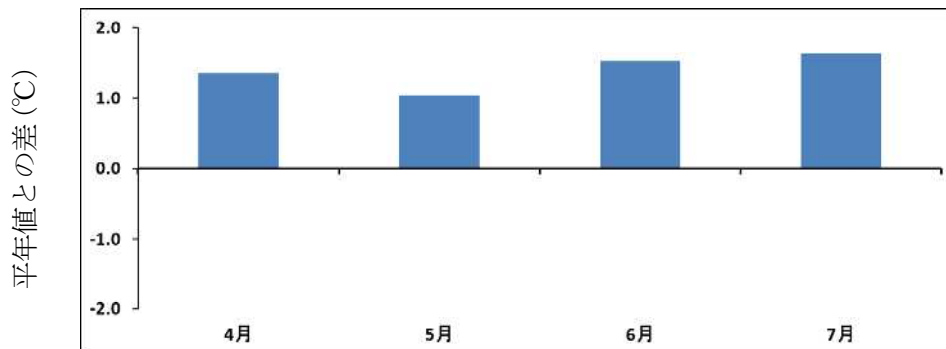


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4月～7月は「平年並」で推移しました。(図2)。

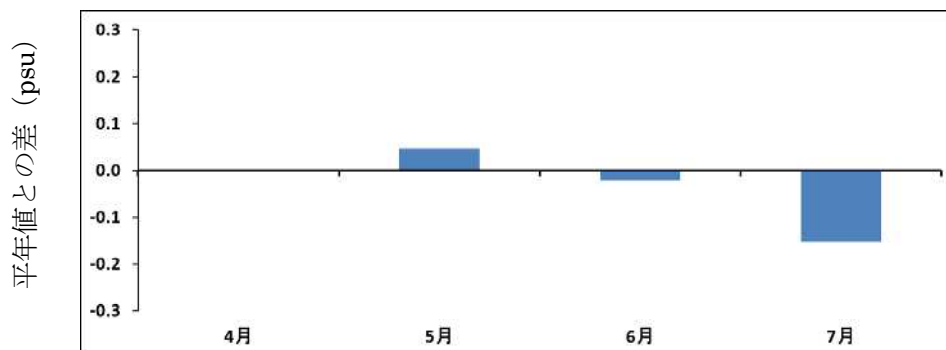


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜令和8年8月～12月＞

■黒潮

- ・都井岬沖では、9月までは接岸傾向で推移し、その後は離岸傾向となるでしょう。
- ・足摺岬沖では、接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがあるでしょう。
- ・潮岬以東では、黒潮はN型基調で推移するものの、9月までは一時的にB型またはC型となる可能性があるでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は「平均並」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2026年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2026)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2026年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」(2026年7月21日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

8月「低め10%、平年並40%、高め50%」

9月「低め30%、平年並40%、高め30%」

10月 「低め20%、平年並40%、高め40%」

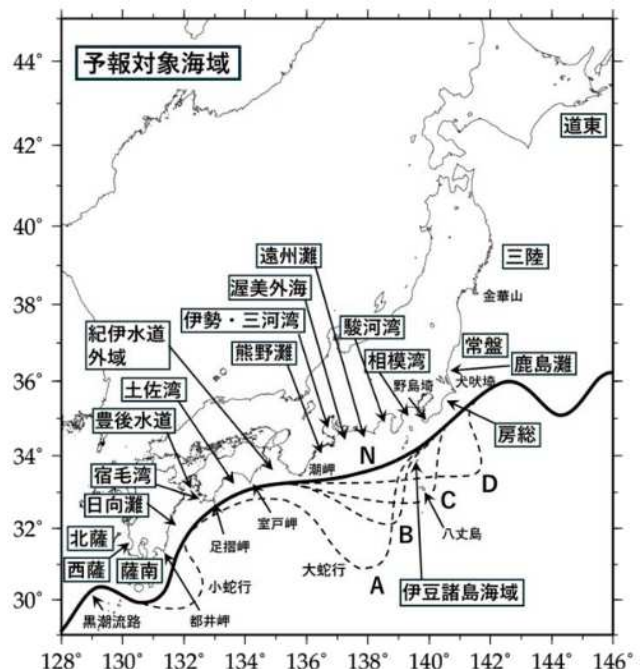


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2026年4月～6月の漁況経過

2026年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚げ量は3,345トンで、前年比422%、平年比110%(1986年～2025年の平年値)と、前年を上回り、平年並となりました。水揚げの主体は被鱗体長^(用語解説①)10.0cm～12.0cm前後であり、5月には15.0cm前後が漁獲されました。

なお、近隣海域^(用語解説②)では、宮崎県では前年の337%、愛媛県では前年の4.6%、高知県では前年の999%の水揚げ量となっています(各県、4～6月の前年比)。

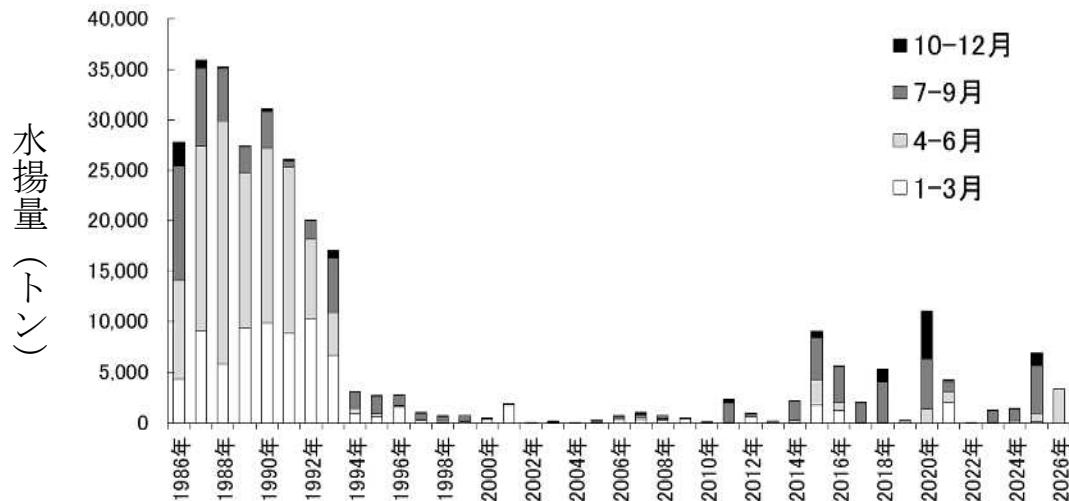


図4 まき網によるマイワシの水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2026年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、**前年並**でしょう。(2025年8月～12月:5,094トン)

水揚げ対象年級群および体長:

被鱗体長12cm～18cm前後の2026年級群(0歳魚)と2025年級群(1歳魚)が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は2026年級群(0歳魚)と2025年級群(1歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。2026年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚げが前年同期を上回ったことから、来遊水準は好調であった前年並と予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2026年4月～6月の漁況経過

2026年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は8トンで、前年比10%、平年比2%(1986年～2025年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長10.0cm～11.0cm前後でした。

なお、宮崎県では前年の12%、愛媛県では前年の261%、高知県では前年の0%(水揚げなし)の水揚量となっています(各県、4～6月の前年比)。

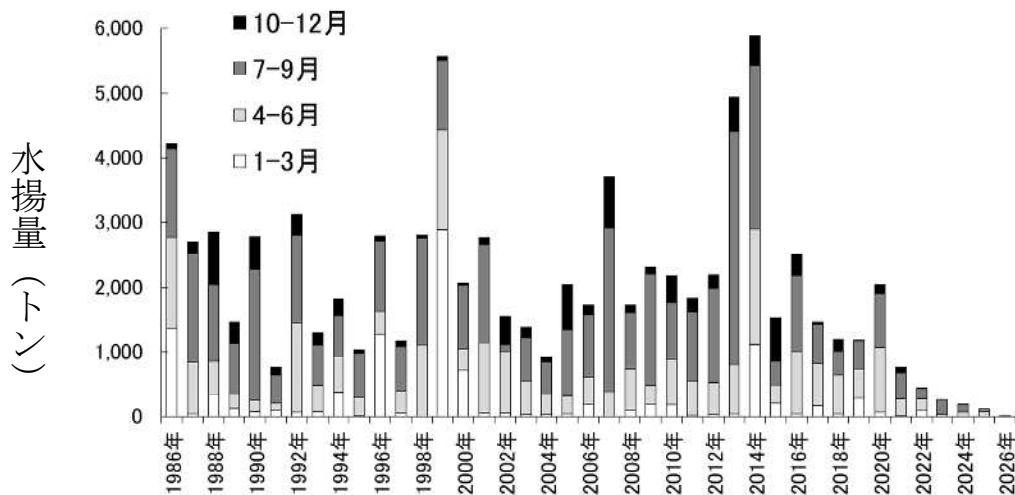


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2026年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2025年8月～12月:37トン)

水揚げ対象年級群および体長:

被鱗体長5cm～10cm前後の2026年級群(0歳魚)主体に2025年級群(1歳魚)が混じるでしょう。

【説明】

2026年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった4月～6月の水揚量は前年同期を下回りました。予測期間前半はマイワシやウルメイワシに混じって漁獲されることがあるため、水揚量に反映されない可能性があります。来遊水準は前年並～下回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2026年4月～6月の漁況経過

2026年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚げ量は38トンで、前年比16%、平年比18%(1986年～2025年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、5月は被鱗体長10.0cm～11.0cm前後、6月は8.5cm～9.5cm前後でした。

なお、宮崎県では前年の132%、愛媛県では前年の282%、高知県では前年の195%の水揚げ量となっています(各県、4～6月の前年比)。

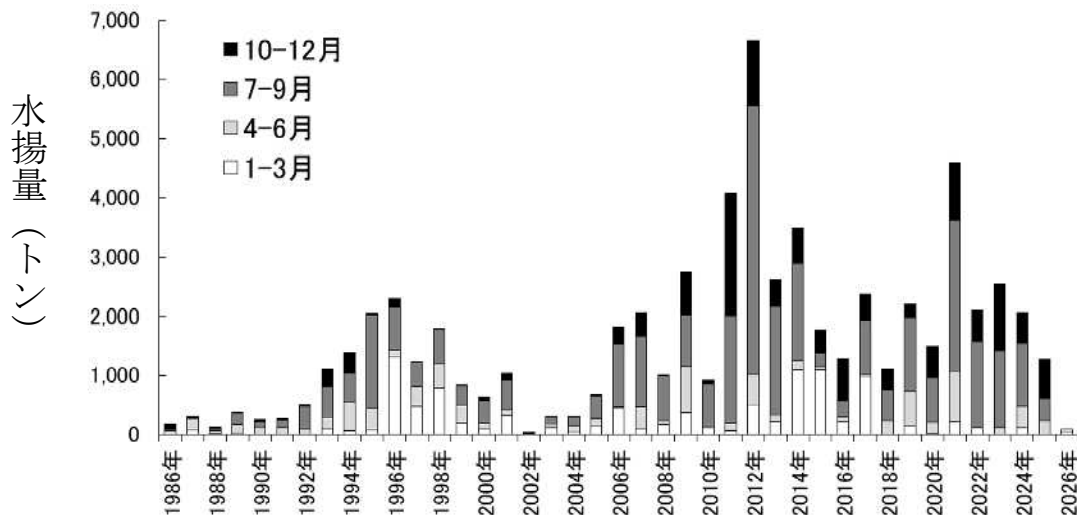


図6 まき網によるウルメイワシの水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2026年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2025年8月～12月:879トン)

水揚げ対象年級群および体長:

被鱗体長10cm～20cm前後の2026年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は2026年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。2026年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚げ量が前年を下回ったことから、来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■マアジ

□2026年4月～6月の漁況経過

2026年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるマアジの水揚げ量は165トンで、前年比53%、平年比36%（1986年～2025年の平均値）と前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、尾叉長^{（用語解説③）}16.5cm～17.5cm前後でした。

なお、宮崎県では前年の113%、愛媛県では前年の91%、高知県では銘柄「あじ」が前年の84%で、銘柄「ぜんご」が前年の1,909%の水揚げ量となっています（各県、4～6月の前年比）。

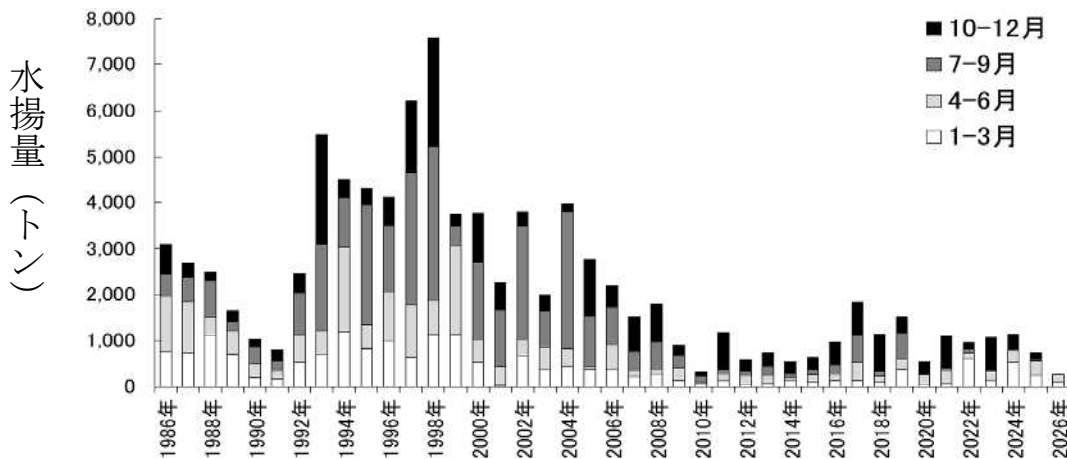


図7 まき網によるマアジの水揚げ量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し＜2026年8月～12月＞

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並～下回るでしょう。（2025年8月～12月：157トン）

水揚げ対象年級群及び体長:

尾叉長10～15cm前後の2026年級群（0歳魚）が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中、水揚げの主体になるのは2026年級群（0歳魚）となるでしょう。2025年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚げ量は前年を下回ったことから、来遊水準は前年並～下回ると予測しました。

■サバ類

□2026年4月～6月の漁況経過

2026年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるサバ類の水揚量は9トンで、前年比8%、平年比1%（1986年～2025年の平均値）と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は尾叉長25.0cm前後のマサバでした。5、6月にはゴマサバも混獲されました。

なお、宮崎県では前年の0%、愛媛県では前年の29%、高知県では前年の203%の水揚量となっています（各県、4～6月の前年比）。

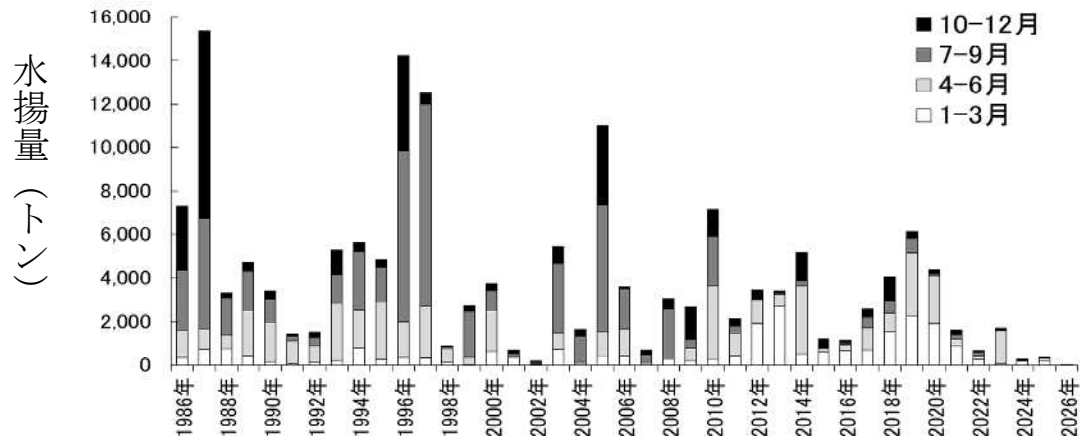


図8 まき網によるサバ類（マサバ・ゴマサバ）水揚量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し＜2026年8月～12月＞

来遊量：

豊後水道南部への来遊量は**前年並**でしょう。（2025年8～12月：14トン）

水揚げ対象年級群および体長：

期間中は尾叉長20cm～30cm前後のマサバ0～1歳魚が主体となるでしょう。

【説明】

近年、豊後水道南部におけるサバ類の来遊は低調で推移しており、1月～6月のまき網水揚げ量は過去5年平均を下回っています（過去5年平均比3.2%）。2026年4月～6月のまき網水揚げ量は前年を下回ったことから、来遊水準は低調であった前年並と予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2026年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155